

令和4年度（2022年度）公共事業再評価調書

（様式3）

基準年月日 令和4年8月1日

調書番号	08-12	所管部	建設部	作成責任者	建設部土木局河川砂防課砂防災害課長 吉田 安範
				担当係	砂防係（内）29-401

I 基本事項（基準日時点）

事業種別	通常砂防事業費（大規模特定砂防等事業費補助）							
地区名	パケレバツ川 ^{がわ}	市町村名	清水町	総事業費	1,850 百万円			
負担割合	国	50.0%	道	50.0%	市町村	—	その他	—
		925 百万円		925 百万円		— 百万円		— 百万円

事業目的・目標	<ul style="list-style-type: none"> 土砂災害から地域住民の生命、財産、公共施設などをを守るため、砂防設備の整備を行う。 H28年（2016年）8月の豪雨出水で流域内が荒廃したため、次期出水で下流域に土砂流出が懸念される。 遊砂地工の整備を行い、人家や公共施設などを土砂災害から守ることを目的とする。 		
	【アウトカム】 等 <ul style="list-style-type: none"> 土砂災害により被災するおそれのある家屋数 443戸 → 0戸 		

事業概要	パケレバツ川通常砂防事業は、土砂災害から人家や避難所などを守るため、砂防設備（遊砂地工）の整備を行うものである。	工事費内訳	【計画】遊砂地工	(百万円)	(百万円)	(百万円)
				前回評価	今回評価	増減額
			遊砂地工 N=1基	870	1,513	643
			測量設計費 調査・設計	100	320	220
			用地補償費 用地買収・物件補償	20	17	△3
			計	990	1,850	860

総合計画での位置付け	総合計画の体系	大項目	中項目	小項目	施策名
		生活・安全	強靱な北海道づくりとバックアップ機能の発揮	大規模自然災害に対する北海道自らの脆弱性の克服	大規模自然災害対策の推進（強靱化）

特定分野別計画等での位置づけ	施策目標・方針	【計画名：北海道強靱化計画 P26】 （砂防設備等の整備） 土石流危険渓流や急傾斜地崩壊危険箇所など土砂災害の恐れのある箇所について、近年の災害発生状況や保全対象などを勘案し、砂防設備や急傾斜地崩壊防止施設、地すべり防止施設等の整備を推進する。
	関連する指標	土砂災害から保全される人家戸数 約2.5万戸（2018） → 約2.7万戸（2022）

II 公共事業評価経過

（単位：百万円）

事業経過	事業採択	着手	評価年度	完了予定	経過年数	事業費	総事業費(a)	道負担額	当該年度事業費	累計事業費(b)	進捗率(b)/(a)
							990	495			
事前評価又は当初	H29(2017)	H30(2018)		H34(2022)	5	1,850	925	500	1,230	66%	
前回再評価											
今回評価		R2(2020)	R4(2022)	R9(2027)							

変更理由・内容（概要）	(1)施設規模変更などによる増額 (2)残土運搬距離の増による増額 (3)自然増による増額 (4)残事業の施工期間精査による事業期間の延伸
-------------	--

III 事業採択前の状況

1. 事業採択に至る経過と背景	<ul style="list-style-type: none"> H28年（2016年）8月の出水により、流域内が荒廃したため、土砂災害が発生する危険性が非常に高い。 土砂洪水氾濫区域内に人家や避難所などが位置していることから、砂防設備の整備が必要である。
2. 事業検討の経緯（住民ニーズの把握等）	<ul style="list-style-type: none"> H28年（2016年） 清水町からの事業着手の要望を受ける。 H29年（2017年） パケレバツ川通常砂防事業に着手。
3. 事業効果を及ぼす地域・対象	<ul style="list-style-type: none"> 清水町 土砂洪水氾濫区域169ha（うち耕地5.3ha → 4.8ha）、人家427戸 → 443戸、国道2.9km、JR650m、橋梁7基、官庁6箇所、病院5箇所、社会福祉施設5箇所、保育所1箇所

事業名	事業主体	事業期間	事業費(百万円)	事業内容
パケレバツ川災害関連緊急事業	十勝西部森林管理署	H29(2017)~H30(2018)	262	コンクリート谷止工2基
パケレバツ川上流治山工事	十勝西部森林管理署	H31(2019)~R2(2020)	104	コンクリート谷止工2基、コンクリート副ダム1基
パケレバツ川支流治山工事	十勝西部森林管理署	R3(2021)~R5(2023)	195	軽量鋼矢板床固工2基
28年災パケレバツ川災害復旧助成事業	北海道	H28(2016)~R3(2021)	9,228	復旧延長L=4,644km、護岸工L=7,688m 橋梁工N=5橋(町道橋4橋、JR橋1橋)等

IV 事業の実施状況

1. 進捗状況	(1) 事業実績及び今後の計画														
	施工(工種)区分	工事内容	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	進捗状況	事業費(百万円)
	遊砂土工	N=1基				←				→				67%	1513
	測量設計費	調査・設計	←							→				84%	320
	用地補償費	用地買収・物件補償			←	→								100%	17
(2) 進捗状況															
床固工4基の内、2基の整備が完了 施設規模変更、土砂運搬箇所の変更、航空レーザー測量の追加等により事業期間を延伸しているが、残事業量を踏まえて事業期間の見直しを行っており、今後は順調に進捗していく見込みである。															
b a: 概ね予定どおり実施している。 b: 事業計画・期間等を変更し実施する。 c: 問題が生じ、実施に支障をきたしている。															
2. 事業効果	経済効果の内訳(百万円)		費用の内訳(百万円)				備考								
	項目	R4現在	項目	R4現在			●「治水経済調査マニュアル(案)」(国土交通省 R2)「砂防事業の費用便益分析マニュアル(案)」(国土交通省水管理・国土保全局 砂防部R3年1月)に基づき算出。 ●効果及び費用は、R4に現在価値化し、「整備期間+完了後50年間」で算出。 ●費用は、現在価値化及び50年間の維持管理費の計上により総事業費と異なる。								
	被害軽減効果	8,564	建設費	1,708											
			維持管理費	1											
	合計(B)	8,564	合計(C)	1,709											
B/C	前回算定年度 : H29年度(2017年度)【事業採択】 前回算定時B/C : 7.63 変更理由 :														
R4現在	・事業費の増額に伴う費用の増加 ・「治水経済調査マニュアル(案)」及び「砂防事業の費用便益分析マニュアル(案)」の改定に伴う便益算定方法の見直しによる効果の増加 ・保全家屋の増による効果の増加及び耕地面積の減による効果の減少														
5.01															
3. コスト縮減などの取組	取組の項目	取組内容										縮減額(百万円)			
	資源循環の促進	現地発生材を山腹覆土工に有効利用することによるコスト縮減										61			
V 評価															
1. 必要性	● 本事業は、清水町の人家及び耕地等の土砂災害を防止するためのもの。 ● 今後の出水により下流域への土砂や流木流出が懸念されるなど、土砂災害が発生する危険性が高い。 ● 事業の必要性に変化はなく、着実に事業の進捗を図る必要がある。														
	a	a: 事業の必要性に変化はなく予定どおり事業を推進する。 b: 着工後の状況変化により事業計画の変更が必要である。 c: 着工後の状況変化により事業推進の是非を判断する必要がある。													
2. 事業を推進する上での課題	(1) 環境上の配慮及び課題														
	● 山腹覆土工に植生マットを使用し、早期の緑化を促す。 ● 床固工については、水生生物の移動に配慮して魚道や巨石擦り付けを設け、溪流の連続性を確保している。														
	(2) 事業推進に対する住民の動向														
● 清水町から事業の早期完成に向けて毎年度要望が出されている。															
(3) その他の課題															
● 特になし															
3. 事業達成の見込み	事業計画に影響を与える状況変化や事業進捗に影響を与える重大な懸念事項もないことから、事業目的の達成が見込まれる。														
	a	a: 現時点では事業の進捗に影響する課題はなく、達成が見込まれる。 b: 課題はあるものの達成は可能である。 c: 大きな課題があり達成には相当の困難が予想される。													
4. 対処方針	事業の必要性に変化はなく、地元からの早期完成要望も受けているため、令和9年度(2027年度)の完成を目指し、事業継続する。														
	a	a: 継続	b: 終了	c: 休止	d: 中止										
	事業期間変更の有無	有	事業内容変更の有無	無	総事業費変更の有無	有									

VI 備考

1. 評価履歴	【評価結果】 事前評価： 該当なし 再評価： 該当なし
	【特記事項】
2. その他の取組事項	

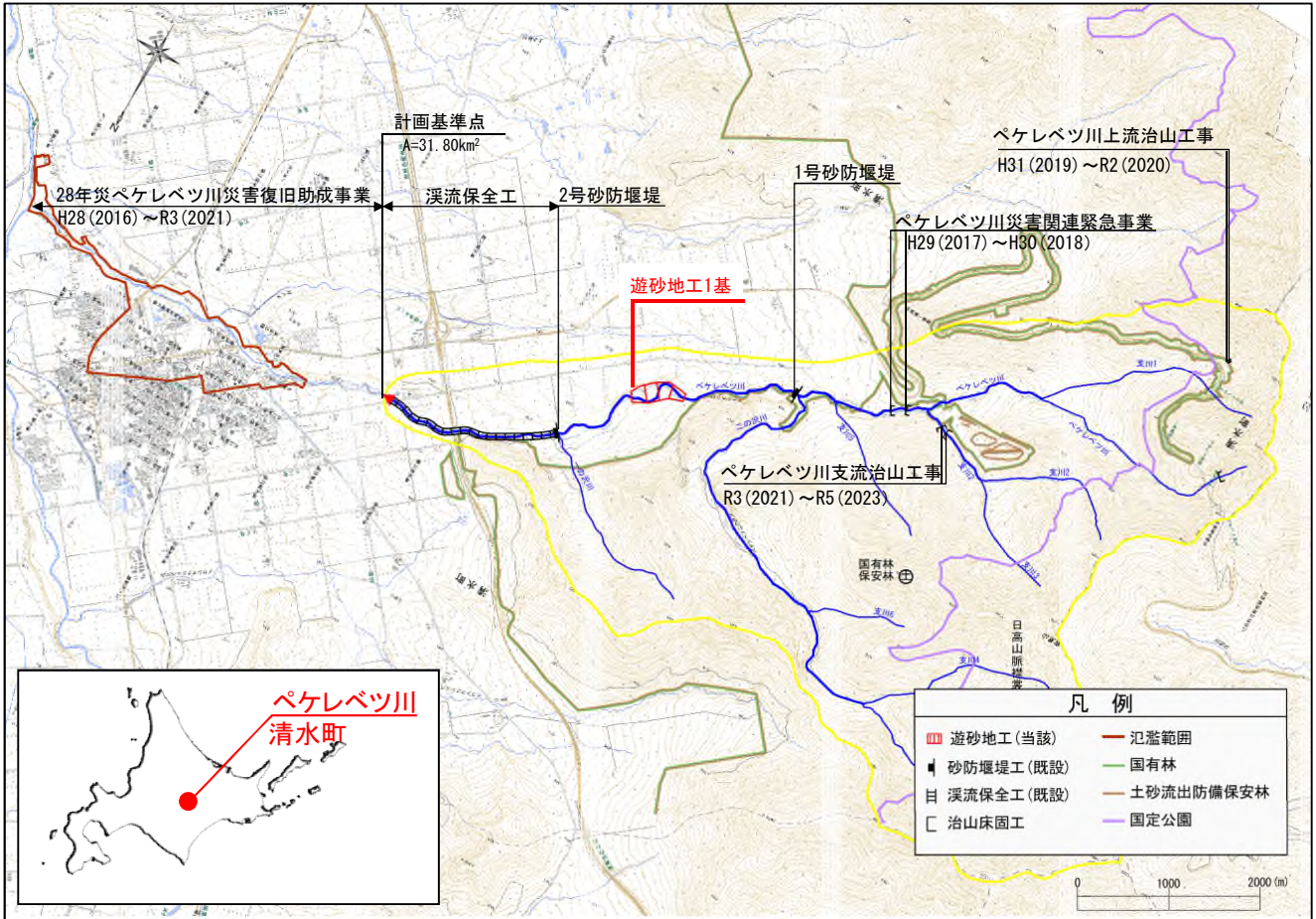
補足資料

VII 事業計画変更

(単位：百万円)

事業経過							経 過 年 数	事業費			
	再評価	事業採択	着手	評価年度	変更年度	完了予定		総事業費 (a)	当該年度 事業費	累計事業 費 (b)	進捗率 (b)/(a)
事前評価 又は当初		H29 (2017)	H30 (2018)			H34 (2022)	5	990			
変更①		H29 (2017)	H30 (2018)		R2 (2020)	R9 (2027)		1,805			
変更②	1回目		R2 (2020)	R4 (2022)	R4 (2022)	R9 (2027)		1,850	500	1,230	66%
変更③											
変更④											
変更⑤											
変更⑥											
変更⑦											
変更⑧											
変更⑨											
変更⑩											
変更理由・内容		変更①：事業期間・総事業費の変更 ・支持地盤の確認結果により、遊砂地工の施設規模が変更となったことなどによる増額 ・残土受入地変更に伴う運搬距離の変更による増額 ・残事業の施工期間を精査したことによる事業期間の延伸 変更②：総事業費の変更 ・資材、労務単価の上昇や消費税率の変更による事業費の増額									

ペケレベツ川 通常砂防事業 (大規模特定砂防等事業費補助)



事業の目的

- 土砂災害から地域住民の生命、財産、公共施設などを守るため、砂防設備の整備を行う。
- H28年(2016年)8月の豪雨出水で流域内が荒廃したため、次期出水で下流域に土砂流出が懸念される。
- 遊砂土工の整備を行い、人家や公共施設などを土砂災害から守ることを目的とする。

事業概要

ペケレベツ川通常砂防事業は、土砂災害から人家や避難所などを守るため、砂防設備(遊砂土工)の整備を行うものである。

